参 考 資 料 ①

令和７年１２月１２日

伊賀市長
稲森　稔尚　殿

伊賀市中心市街地活性化協議会
会長　山本　禎昭

「旧上野ふれあいプラザ」活用に関する提言

伊賀市中心市街地活性化基本計画に位置付けられていた「ふれあいプラザひまわり運営事業」について、事業主体の民間事業者の辞退により工事が完了せず、伊賀市が民間事業者との売買契約を解除し、買い戻し協議を進めることとなりました。市長が「スピード感を持って市民の参加と協働で市街地再生に取り組む」と決意を表明したことを受け、当協議会としての活用提案の検討をはじめました。

当協議会は現図書館跡の活用、だんじり会館、美術博物館、新芭蕉翁記念館など、中心市街地における山積する他の課題～「将来を見据えたグランドデザイン」～の重要性もふまえ、プロジェクト会議を設置しました。

会議は全５回にわたり実施し、旧上野ふれあいプラザの利活用を通じて、中心市街地の回遊とにぎわいを創出するための方向性を集約した内容を以下のとおり提言いたします。

１．責任あるリーダーシップと市民参加

①市の責任あるリーダーシップ

旧上野ふれあいプラザは、行政計画（第３期伊賀市中心市街地活性化基本計画）に位置づけられた事業であり、立地的にも伊賀市、伊賀市民、及び地域住民にとっても重要な場所であることから、今後の整備の検討に向けては、事業主体に拘わらず市は責任をもって関わっていただきたい。

②実効性のある市民参画プロセス

計画策定・実行段階において、ワークショップやアンケート等の手法を用い、広く市民の意見を反映させるプロセスを確立してください。透明性の高い合意形成を図ることで市民の納得感を高め、持続可能な施設運営につながると確信します。

２．まとめ

本提言は、中心市街地の北と南の結節点であります。旧上野ふれあいプラザ跡地を人が回遊する拠点、人が交流する拠点として整備することで、居住者にとって、気軽に利用できる憩いの場、交流の場の役割を果たし、来街者に対しては、南北周遊の拠点としての役割を果たします。これらのことが新たな賑わいの創出に繋がります。

市民の憩いと交流の場を提供することによる日常的な利用の促進と、公園と防災機能の併設による有事への確保という、二つの柱を核としています。そして、この二つの要素は、単に並列させるのではなく、相互に機能を補完し合う空間として確保されるべきです。

また、旧上野ふれあいプラザという一つの施設のあり方を問うものですが、現図書館跡の活用、だんじり会館、美術博物館、新芭蕉翁記念館など、中心市街地における山積する他の課題、すなわち「将来を見据えたグランドデザイン」が重要であり、伊賀市の中心市街地をどう再生・活用して、伊賀市全体の発展につなげていくかの検討が必要です。

市当局におかれましては、本提言の主旨を十分に汲み取り、スピード感と熱意を持って施策に反映されることを強く要望いたします。

資料１参照

旧上野ふれあいプラザ活用（案）

【提言①】伊賀流フードコート施設と公園型フリースペースに整備
【提言②】安心安全で世代間交流ができる公園に整備
【提言③】観光客と市民のためのコミュニティバスターミナルや芝生広場に整備し防災機能を併設
【提言④】オールシーズン・天候にかかわらず、市民および観光客が集い、憩える空間に整備

旧上野ふれあいプラザ活用

参考資料 1

	提言①	提言②	提言③	提言④
整備の方向性	**伊賀流フードコート施設と公園型フリースペースに整備**	**安心安全で世代間交流ができる公園に整備**	**観光客と市民のためのコミュニティバスターミナルや芝生広場に整備し、防災機能を併設**	**市民および観光客が集い、憩える空間に整備（オールシーズン・全天候に対応）**
整備方法	**解体**	**解体**	**解体**	**改修**
整備方針① ・目標②	①伊賀流フードコート施設と公園型フリースペースを整備 ②若者世代をターゲットに、伊賀ならではのメイン集客施設を本町通りに設置し、城下町の再生を図る	①安心安全で世代間交流ができる公園を整備 ②中心市街地の人口を増やす	①観光客と市民のためのコミュニティバスターミナルや芝生広場を整備し、防災機能を併設 ②魅力ある伊賀観光を発信し、また来たくなる「忍のまち いが」を PR する	①市民および観光客が集い、憩える空間を整備 ②市民が集う交流の場、観光案内拠点、非常時の避難場所としての機能を確保する
整備内容	【食と飲み物】 ・伊賀食材のフードコート ・子ども向けカフェ・ワークスペース 【公園と防災機能】 ・公園型フリースペース（堀による水辺空間と防災機能を持つ） 【憩いと交流の場】 ・憩いと交流の空間	【公園と防災機能】 ・防火水槽を備えた親水公園（防火水槽の循環利用） 【憩いと交流の場】 ・憩いと交流の空間 ・キッチンカーやテナントを活用し、賑わいを創出 ・東屋の屋根に太陽光パネルを設置し、空間および非常時の電力を確保	【公園と防災機能】 ・グリーンスペース（芝生公園） ・噴水 ・防火水槽 【交通と利便施設】 ・中型バスターミナル ・キッチンカースペース ・喫煙所	【憩いと交流の空間】 ・憩いと交流の空間 【屋内施設】 ・オールシーズン全天候空間 ・非常時の全天候一時避難場所（太陽光発電設備、非常用発電機、マンホールトイレなど設置）
対象ターゲット	住民・観光客	住民・観光客	住民・観光客	住民・観光客
整備主体① 運営主体②	① 伊賀市又は民間事業者 ② 民間事業者	② 伊賀市 ③ 伊賀市又は民間委託	①伊賀市 ②民間事業者（バス運行会社）	①伊賀市又は民間事業者 ②伊賀市
効　果	・伊賀食材を活かした新商品の展開とプレーヤー創出 ・雇用の創出。拠点施設の集客力向上や空き家等の活用による路面店や既存店の充実、魅力的なまちづくりの推進	・中心市街地の安心安全を強化することで、人口の増加を促進	・日帰り観光でも滞在時間が増え、周辺観光の認知度向上（観光によっては伊賀鉄道伊賀線の利用促進）	・賑わいの創出と市民等の交流促進。観光客の滞在性向上と、防災対応による安心安全の向上